

協議結果

次の協議会を下記のとおり開催した。

名称	第2回益田市地域公共交通活性化協議会
開催日時	令和7年7月25日（金）14：00～16：35
開催場所	益田市立保健センター 大ホール
出席者	<p>○出席者</p> <p>[益田市地域公共交通活性化協議会委員]</p> <p>波田正博会長、渡辺健一委員、藤原政志委員、庄司彰委員、堀本稔委員、高木俊輔委員代理、澤江佑三委員、岡本堂里委員、村岡宙委員、佐藤伸廣委員、山本宏史委員、齋藤慎哉委員、佐川賢一委員、丸山武委員、天野克之委員、藤田敦史委員、中島克仁委員、高倉大委員、橋本秀治委員、藤本美香委員</p> <p>[オブザーバー]</p> <p>加藤博和氏</p> <p>[事務局]</p> <p>政策企画局 長嶺局長</p> <p>交通対策課 宅野課長、千振課長補佐、三上副主任主事</p> <p>○欠席者</p> <p>[益田市地域公共交通活性化協議会委員]</p> <p>山岡索委員、齋藤晃信委員、岡崎朝子委員、小原静伍委員、加藤博和委員、三浦康広委員、松本徹委員、和崎幹弘委員</p>
公開・非公開の別	公開
傍聴人の数	3名
問合せ先	政策企画局交通対策課 電話 0856-31-1050

協議経過

1. 開会
2. 報告・協議事項
(1) 地域公共交通活性化協議会の進め方について
オブザーバーによるショート講演を実施。
内容：協議会の役割、地域公共交通計画の策定について等
(2) 益田市地域公共交通活性化協議会の現在（令和7年7月25日）までの経過について
①益田市地域公共交通計画の進捗状況

事務局から【資料1】をもとに、現行の益田市地域公共交通計画の概要や目標に対する進捗状況の説明を行った。	
委員	意見なし
②令和7年度 第1回益田市地域公共交通活性化協議会の結果報告	
事務局から【資料2】をもとに、令和7年度第1回協議会（書面開催）の結果について報告。 なお、資料2-①については、委員への事前配布資料から一部修正を加えて差し替えを行った。	
【質疑応答】	
委員	<p>事前にいただいた書類を今日の受付で差し替えられましたけど、もう皆さん目を通されたと思っていますので、事前配布資料について、私どもと益田市さんとの見解の違いみたいなところを少しお話ししながら、なぜこうなるのかということをお話しします。事前に資料でいただいた文章の中では、弊社が3月31日に廃止の届け出を出したということになっています。私どもは、益田市さんに、昨年7月8日、県を通じて、都茂線を廃止させていただきたいという申し出をさせていただいております。その時は匹見・梅月・種線が先で、そのあと、都茂線をさせていただくということをお伝えしておりました。</p> <p>しかし、今回いただいた資料の中では、3月31日に突然廃止届を出したというような内容だったので、もう少し時系列をもって正しく皆さんにお伝えさせていただきたい。</p> <p>その中で、これまで都茂線の廃止について何とかならないかというような協議をしたと書いてありましたが、私どもはそんなことを一度も受けたという記憶がございません。なので、そのところも少し整理をしていただいて、正しくお伝えさせていただきたいという思いがあります。</p> <p>あと今後のことになるのかもしれませんが、私どもが匹見線含め都茂線を廃止させていただきたいとお伝えをしたときに、市長さんは、廃止される路線については住民生活に支障のないように何とかするという回答をいただいたので、私どもも廃止をさせていただきたいということで、廃止届を出させていただいた次第です。</p> <p>先ほど加藤教授のお話にもあったように、公共交通というのは、住民生活のみならず、観光、地域発展、地域振興のためになるものが公共交通だというお話もあったと思うのですが、今回3月に始まった匹見線は、2往復しかない状況で、とても地域振興や観光の役割を果たせていないものだと思っていましたので、私どもは協議会のところで反対をさせていただきました。</p> <p>また、9月をもって都茂線が廃止とはなりますが、匹見の二の舞にならないようなダイヤや利便性をしっかり確保していただきたいというのは、少し後の話になるかもしれませんが、併せてお願いしたいと思っています。</p>
事務局	まず、協議の経過についてでございます。確かに事業者さんと我々との認識の違いがある

	<p>かと思っています。協議記録等も残っておりますが、我々はこれまでも課題についてなど、昨年度より協議を行ってきたと認識をしておりますけれど、ここはお互いに認識の違いということですのでそこは差しおいて、改めて文書により、路線の継続等についてはご依頼をさせていただいているところと認識しております。</p> <p>それから、匹見線の便数についてでございます。確かに匹見線につきましては、地域住民から要望等もいただいているところでございます。現在、運行してから3か月程度経っておりますが、要望や利用状況を踏まえて、しっかりと住民の声を聞きながら、改善できる点については改善をしていきたいと考えております。</p> <p>都茂線についてでございます。これは後ほど提起させてもらいますが、そういった経過もあり、しっかりと考えたつもりではございますが、皆さんからまた意見をいただきながら、改善・修正等できるところがありましたらしていきながら、代替案については検討を進めていきたいと考えております。以上でございます。</p>
委員	<p>すみません。加藤教授もおっしゃられたように地域をよくするために喧嘩をするのだと言われましたので、言葉が少し荒くはなるかもしれませんが、これまでいろいろな話をさせていただいたとは思っています。もちろん私も出向いて話をさせていただいたと思っています。でもやはり、その中で、匹見線を残してほしいですとか、少しでも延長できないかというお話をいただいたことは、1度もなかったと思っています。事実確認、バス停はやめたらどうされますかなどの事務的なやりとりしかなかったと思っています。</p> <p>まして、都茂線のお知らせをした中で、都茂線のつの字も出てはいなかったような気がしています。要望をしたと言われましたが、要望をいただいたのも、今月の3日です。その要望書の中に、具体的な公共交通を維持してくような取り組みだとか、益田市さんの姿勢というものは何もなかったもので、私は11日に質問のような形でお返事をさせていただいたと思っています。</p> <p>昨年の7月の段階で、今月いただいたような要望だったら、まだ検討もあるかと思いますが、匹見線をされるときに益田市さんは時間がないと言われていましたが、時間がないのは私たちの方で、残った3か月で、要望の中で、何を私どもがすればいいのかも、今後公共交通がよくなるかもわからないような状況だったので、質問という形でお返事をさせてもらっているとは思いますが、その答えはまだいただけないと思っています。</p> <p>もう少し包み隠さず話をさせていただけないかなというのが一番ですし、しっかりとした益田市さんの思いを聞きたいというのが、事業者として、今後公共交通をどうやって考えていくか、他の路線にも影響することだと思っていますので、その不安を取り除いていただきたいと思います。</p>
事務局	失礼いたします。

	<p>確かに認識の違いというところは出てくると思います。それも含めて、市長と代表取締役とのトップ会談で、この課題については何とかすり合わせる事ができないかと思っておりますので、この場ではございますが、会談の設定の方もお願いできればと思います。</p>
会長	<p>私もこの4月に、副市長に就任しまして、これまでの経過等も担当課からいろいろと聞いたところであります。4月以降少なくとも私が就任してから担当課と様々な話をする中で、事業者さんとはやりとりをさせていただいているとお聞きしております。それぞれの受けとめ方の違いがこれまであったかと思いますが、今課長も言いましたように、是非ともこれから良い方向に話を持っていきたいと思っています。</p> <p>これからも協議を重ねて、よりよい地域公共交通の形成に向けて、一緒になって取り組んでいきたいと思っております。ご理解をいただければと思いますので、よろしく願いいたします。</p>
委員	<p>すみません。私どもは良い方向に持っていきたいとか、要望書の中にも、持続可能な公共交通の確保に向け最大限可能な限り努力を行うというようなコメントもいただいておりました。それに対して、具体性が何もありません。社長と会って話をしたい。どんな話をしに来られるのですか。私も伝書鳩じゃないので、伝えるわけにもいきません。</p> <p>何かこういった話を、このようにして良い方向にしたいというのではなくて、こうしたい、ああしたい、こういうことをするからしたいって言ってもらえないと、なかなかその会議の場を持ってないと思っております。今の先も見えない、具体的なことがない段階であると、私どもも困るところがありますので、もっと具体性を持ってお話をしていただきたいと思っています。</p>
事務局	<p>わかりました。具体的な課題とか、そういった路線の問題、或いは、便数でありますとか、利用促進ですとか、そういったところは我々事務担当レベルのところですり合わせをしていきたいと思っております。ただ、そういったことも含めて、この間の事業者さんと市の認識の違いのすり合わせについては、ぜひトップ会談で整理ができればと思っています。</p> <p>その上で、事務レベルで、そういった協議を進めていく、そういった出発点にしていきたいと考えておりますので、改めてよろしく願いいたします。</p>
(3) 路線バス都茂線の令和7年10月1日以降の運行内容等について	
事務局から【資料3】をもとに、①都茂線の10月1日以降の運行案、②乗合タクシー真砂線の変更案、③析山・岩倉線の変更案、④都茂線廃止に伴う通学特化型タクシーの運行案、⑤美都地区乗合タクシーの変更案について説明を行った。	
事務局	都茂線に関連することで、10月1日以降運行再開が予定されている新広益線について、事業者さんから説明をいただきますので、よろしく願いいたします。
委員	新広益線は益田から191号線戸河内経由、広島行き的高速バスですが、運休させていた

	<p>だいておりました。ご迷惑をおかけしました。</p> <p>この路線について、国と県の支援をいただける見通しが立ったことと、安芸太田町さんから利用促進に向けた予算の確保をしていただくことができました。しっかり路線をPRして利用に努めたいと安芸太田町さんにおっしゃっていただきましたので、私どももそれに応えて運行再開をさせていただきたいと思っています。10月1日に運行再開の予定です。</p>
委員	<p>先ほど住民説明会をされるということだったので、この案は、この場で承認したという説明は住民の方にはされないということではよろしいのでしょうか。もう一つ気付いたのですが、先ほどの観光や地域の経済活動という意味で見るときに、都茂線代替案ですけど、温泉に益田市街地の人が遊びに行けなとか、道の駅にお祭りがあっても行けないというダイヤなのですけど、そういったところはよろしいのでしょうか。</p> <p>まして土日は予約を前日までにしておかないと利用するというのもできないようなダイヤですし、やはり美都地域の発展や経済活動というところを何も考慮してないようなダイヤにしか思えません。</p>
事務局	<p>まず、先ほどありましたが、本協議会は決定する場ではありませんので、協議会で決定したということではありません。あくまでも、この場はご意見を伺う場ということではあります。</p> <p>温泉等に行けないというご指摘でしたが、まずは、これまでご意見があった病院、買い物等、その生活手段の確保というところを主眼に設定をさせていただいているところです。ですので、この案に若干修正がかかるかもしれませんが、この運行が開始された後にも、利用状況や皆様からのご意見を伺いながら、改善できる点は改善をしていきたいと考えております。</p>
委員	<p>これまでのご意見というのは、美都地域の方のご意見であって、美都の住民がバスに乗って温泉に行くとは思えないのですが、美都地域の商工会の方は、道の駅があったり、温泉があったり、祭りがあったりということで、いろんな人に来てもらいたいという気持ちもあると思います。</p> <p>そういった部分も考慮された上でのダイヤということでしょうか。</p>
事務局	<p>先ほども申しましたが、まずは沿線地域の方の最低限の生活の確保というところを主眼に設定しています。</p> <p>現時点で、路線バスの利用者数の現状ですとか、乗車密度等を勘案した中で、まずはこの計画について提案をさせていただいて、住民の皆さんからの意見も取り入れながら、再度調整できる部分については調整していきたいと考えております。</p>
オブザーバー	<p>基本的な確認ですが、今のこの規模は、例えば市の持ち出しが今までの路線と同じぐらいの額だとこれしかできない、そういうことで考えたらいいのですか。それとも、もっと圧縮しているとか、そのあたりはどうなっていますか。</p>

	<p>なぜそんなこと聞くかという、今の都茂線は地域間幹線ですよ。地域間幹線というのは、平成の合併以前に、別の市町村だったところ、複数市町村を、もちろん今も違うとこだって有効ですが、平成の合併前の市町村構成のときに、複数市町村を跨いでいて、例えば3往復以上にするとか、何個か条件があるのですが、そういうことを満たす路線であったら、国・県があるレベルまでは、半分ずつ補助を出してくれるという制度。なので、市としての持ち出しは少なく済むという、そういう路線ということで、例えば事業者さんがやめたとしても、同じ条件を満たしているのだったら、今度の新しいものでも市の持ち出しはそう多くなくてもできるということのはずです。ですが、それは無理と判断されるということが1つあるのだろうなと思ったこと。今の方向だと、国の補助金の要件を満たさないのが無理です。ただ、なぜ満たさないかという、もしかすると今の事業者さん以外の会社をお願いする場合、運転手が足りないとか、或いは時間がないような状況にあって、これだけしかできないのかもしれないとか。</p> <p>かつ、国と県が出していたものが出されなくなれば、市の持ち出しをそう多くすることができないのだったら、このようにならざるを得ないと理解すればいいのかとか。</p> <p>そうすると、委員さんからご質問あったような観光というところまでは考えられないからこういう最低限と理解すればいいのか、その背景がわからないと議論が難しいと思います。</p>
事務局	<p>先ほども言いましたとおり、これまでの利用者数を勘案して、時間帯については利用が多い時間に寄せて設定をしております。3往復とした理由については、先ほどご意見があったとおり、幹線補助の要件に3往復という部分もありますし、1便当たりの乗車人数もございます。ですので、1便当たり、あまりにも現状にそぐわない便数を設定することによって、そういった補助を受けづらくなるといった理由もございます。</p>
オブザーバー	<p>まず、私は事業者さんに運行し続けてほしいという1つの理由はそれです。</p> <p>5往復くらいないと、輸送量15人という要件がありますが、輸送量15人というのは、起点から終点まで運行したときに必ず1日15人以上、ずっと満遍なく乗っているということまでいかないといけなくて、今ここで3往復といっているのですが、ジャンボタクシーとか考えているとすると、3往復で15人は乗り切らないです。なので、実際これだと申請がほぼできないことになってしまう。もちろんもっと積極的にやれば、申請も可能だと思う。でもそちらは他の事業者であればできないということだと思います。時間がない中で設定するとこうなることと理解はしています。</p> <p>あと、これは根本的な話ですが、地域間幹線補助の仕組みとはどういうものかという、例えば高校や病院に通う路線として非常に大事だというのがあって、存在する制度です。そうすると、高校は3年通うわけですから、3年は路線がなければいけない。なので、地域間幹線補助の申請というのは、国に対しては3年間やるつもりだということに、昭和の頃から</p>

	<p>そうなのですが、そういう制度としてあります。だからいきなり廃止するのは良くない。多くのところだと補助対象基準の15人を割れたとか、3往復ができなくなったということにして、3年間はもう今のままでもたないで、まず補助を返上してやめるというのが普通のパターン。そこについて理解していただけると良いと思います。今回そこも特殊なところでして、もともと地域公共交通計画に大事な路線として掲げ、高校通学が実態としてあまりなかったと聞いていますが、そういう状態だと事業者さんにとにかく頑張れと言われても難しいところだと思うので、都茂線について、ここで交付をしていこうとするのであれば、沿線地域の皆さんには、高校生は全員乗るなど、そのぐらい言ってやらないと、そういう覚悟を持ってもらわないとなかなか難しい。人口減少も続いているわけで、同好会では行き詰まるので、そういうことにならないように、考える覚悟はしていただかないといけない。もちろん、僕自身はすぐ覚悟していただきたいと思ってここへ来ているので申し上げますけど、客観的な状況としては、今私が申し上げたことをご理解いただいて議論していただきたいなと思います。</p> <p>あと先ほど言ったように、まだ選択肢はこの1個ではないということも念頭に置かれるということだと思います。なので、住民懇談会でわかりやすく説明しないといけないと思います。</p> <p>一応、地域間幹線補助をもらったら3年間やると約束しているということで、その3年は高校生がちゃんと通える、高校選択するときにその路線が3年あると思って乗っていいよ、というように宣言しているというのが、本来のあり方です。あと、今は地域公共交通計画を策定しますから、さらに5年はやるということ。だから、やめるときにここが正常ではなかったところですが、ここできちんとそのことを議論して、やめるのかやめないのか、できないのだったらどのように変えていくかきちんと議論することを、皆覚悟を決めてやろうというように、これから変えていただきたい。そういうことを改めてお願いしたいと思います。</p> <p>今はもうやめる話になっているので、かなり追い込まれたところで議論せざるを得ないので、今の議論で仕方ないのですが、これからこういうことが二度とないようにお願いしたいということです</p>
委員	<p>事業者さんに質問したいと思います。</p> <p>この都茂線の廃止については衝撃的に受けとめております。</p> <p>こういう会で聞くわけではなくて新聞報道等でわかりましたので、そのところについて質問させていただきたいと思いますが、事業者さんは、大田から津和野まで大変広域な路線を担っておられました。</p> <p>平成10何年かわかりませんが、国鉄或いはJRバスの撤退後、或いは三江線の廃止後、住民のために、長大な、中山間地まで距離を稼いで路線バスを張り巡らされておられた。コ</p>

	<p>ロナ禍には相当なコストもかかりますし、コロナ禍前までは、様々なグループ企業の中での内部補助で維持ができていた。ですが、このコロナ禍で、バス会社について、私もバス会社の運転手なので状況はよくわかりますが、そのロジックが崩れてしまった。そうすると非常に維持するのは大変です。</p> <p>ただ、私は労働組合の立場なので、路線廃止については、そこに働く皆さんの働き場がなくなるという観点から、廃止については反対してきております。ただ、ここ数年、2024年の時間外規制の関係もあって、運転手不足が急速に加速しました。これはコロナ禍の影響もあったためですが、そのため、島根県東部でも路線の廃止或いは減便で、利用される方々にはご迷惑をかけているというのは事実であります。</p> <p>ただ、これまで公共交通を支えておられる中で、匹見線の時にも質問しましたが、運転士がいないということだけが理由かと聞いたときに、そうではないとお聞きしました。今回の都茂線についても、いろんな選択肢があるということはおっしゃられましたが、このような議題が出てくると選択肢はそう多くないというのも、皆様思っておられるかもしれません。ただ、私はこの場にいながら、バスというこの特殊な移動媒体を守るべきだとずっと思っております。</p> <p>ただ、利用される方々にも同じ思いをしていただかなければなりません、事業者がどうしてもできないと言われれば、それはもう無理なことは言えない。ただ、いろんな発言の中で協議をしていないなど聞きましたので、この議論に入るまでに再度お聞きしたいと思います。</p> <p>この都茂線についての継続をするためには、どのようなものが必要か教えていただけませんか。もし可能であれば、よろしくお願いします。</p>
委員	<p>当社は令和5年の夏頃に、知事のところに非常に厳しい状況です、というのを伝えに行きました。その中で、これまでどおりの支援だとこれまでどおりの路線を維持していくことは難しいというお話をさせてもらい、令和6年3月頃から島根県さんや各市町といろいろな協議をしていただいた中で、インセンティブ補助の拡充ということで、島根県さんにはご尽力いただきました。</p> <p>その中で西部の市町さんに補助率を10%から30%にしようということでご賛同いただいたのですが、新聞にもありましたように、益田市さんだけがそれに賛同していただけなかったという状況です。</p> <p>です、そういった状況の中で、もちろんこれまでどおりの支援だとこれまでどおりの路線が維持できないというのはお伝えしていただきましたので、苦渋の決断ではありましたが、匹見・梅月・種線の廃止のお知らせとともに、都茂線も今後廃止させていただくお知らせしました。</p>

	<p>補助金というのは路線ごとに出ていまして、経費の積み上げから欠損ということになっています。経費は一律にはなっていますが、路線ごとに負担の大きい路線、少ない路線というのはありますので、匹見線や都茂線は宿泊が伴ったり、雪が多かったり、長大な路線であったりということで、市内をまわる路線より経費が掛かっております。少しでも収支を改善するためには、そういった路線をやめて事業者努力を見せなければならないということです。</p>
委員	<p>よくわかりました。ただ、お聞きしていると、これまでの支援よりも少しでも支援の拡充ができるのであれば継続が可能かどうかというのは、先ほどオブザーバーもおっしゃりましたが、今の提案は、非常に利用される方々には利便性が落ちてしまう。負担を強いるということはもう明白で、これまでの路線バスの運行は1日8便ある中、半分以下になる。しかも学校に通われる方もおられる。1台では到底運べないので2台運行しないとイケない。これは非常に非効率であり、バスを走らせるメリットというのは大きいものがあります。どのくらいの費用がかかるか、私も質問しようかと思ったのですが、少しの手出しであるならば、当然、維持するべきである。しかも、匹見線の廃止のときにも、地元住民の方が非常に惜しんでバスの運転手さんにも花をあげられたところを見ました。私も同じ乗務員としては、本当に寂しいなと思ったところではありますが、これまで一生懸命頑張ってきた中で苦渋の決断だと言われたことについて理解はしますが、当然ながら皆さんもよく話し合っただいて、残せるものなら残したい。そのためには何が必要かというのを今お聞きしたところでもありますので、先ほど路線ごとにコストがかかるとおっしゃりましたが、当然その路線を維持しながら、今の便数を少し減らすというのも手だと思っております。私も東部のバス会社で運転手をしておりましたが、労働組合の執行委員長をしておりますので、この様々なコストダウンについては関わってきております。ただ、路線バス或いはこの公共交通については労働集約型で人件費が8割ぐらいになっておりますので、コストダウンといったら便数をある程度減らすか、車両を古いままで走らせるか、そういうことくらいしか方法がない。ただ、人件費を抑制してコスト管理をしてきたというのがこれまででしたが、この物価上昇、人手不足では、このようなこともできないのが現状です。</p> <p>ですから、企業努力とすれば先ほどの路線を維持しながらでも、少し便数を減らすなり、減便案件にするとか様々なことができますが、持続可能ということであるならば支援が必要でありますから、支援が拡充されればやるということだったら、益田市としてもきちんと対応していただければ済むと思うのが率直な意見でございます。匹見線の時もいろんなボタンのかけ違いという言葉を出しましたが、そこについてはきちんと議論を重ねないと、代替案に賛成してくださいと言われても議論できない、というのが率直な意見です。</p> <p>住民の皆さんも当然このものを説明されたら、これは何なのかということになるのは間違いないし、運賃についても協議する場ではないですが、匹見線のときもそうでしたが、30</p>

	<p>0円という運賃で本当に持続可能なのか。受益者負担、利用者の方にもある程度の負担をしてもらわないといけない。ただ、住民からすると300円だったらバスよりもいい、というようになってしまうので、ここについても今後議論は必要であります。今聞いたのは、バス事業者さんとすれば、支援が拡充されれば継続できるということについては明言ができるのですか。</p>
委員	<p>今、明言というのは厳しいです。0か100かということではないとは思いますが、それはご相談いただければ検討の余地はあります。</p> <p>まず冒頭申しましたように、昨年7月には廃止の旨をお伝えしているのです、その段階からしっかり話をさせていただいたのであれば、もっといい言葉になったかとは思いますが。今の段階で、明日補助金を増額するからと言われても、100%残せるというのは言えないかもしれない。ただ、0ではないとは思っています。</p>
事務局	<p>我々の方も、補助金を出せますかと今ここで言われて、「はい」と言えるところではございません。今ここで決めるということではできません。もとより、これも報道には出ていますが、市の方も補助金を決して出さないということを行っているつもりはないです。</p> <p>今、委員さんがおっしゃられたように、どうやって運転手を確保していくのかという部分、オブザーバーのお話にもありました人件費という部分を、これだけ世の中物価が上がって人件費も上がっていくという中で、しっかりと確保していくためにもそうしてきたところですが、なかなか具体的な話が出ていないというのが、これまでの正直なところだと思います。私もこの4月からということで、この内容をつぶさに理解しているわけではないのですが、そういった状況というのが正直なところですよ。</p> <p>事業者さんと同じように、ここで益田市さんに補助金を出されたいのではないですかと言われて、「はい」というような話ではないということです。</p>
委員	<p>誤解を招いたらいけないと思いますので付け加えておきます。今の補助制度で、人件費というものに偏って使うということについては、わかりません。それこそ収支の中で、いろんな営業費の中の項目があるので、当然ながらこれを人件費に使ってくださいというようなやり方はできない、今のスキームでは。ただ、廃止代替交通のように道路運送法21条かもしれないけども、委託して1千万円でやってください、これ以外に運転手さんには300万をプラスアルファしますので、という事務費で使えるので、島根県の補助では違う名目で補助金が出ております。</p> <p>これまでも、高速バスにも補助金が出るなど、今はなくなりましたが、県もいろんなところで路線を守るためにやっていただいておりますので、その認識については、もう一度よく調べていただいて、匹見線の時も人件費に使ってもらえるのなら補助を出しますとの益田市さんの言い方でしたけど、今のスキーム上ではその人件費に偏った使い方というのは事業</p>

	<p>者にはできないです。全体として2%上がったから経費が上がりましたということはいえるが、これが何に使われたかはなかなか出すのは難しい。ただ人件費部分では、専属人件費と付帯する人件費とで少し重なるところがあるとは思いますが、これといったところが事業者としては出しにくいことをご理解いただければと思っております。</p> <p>ただ、補助金を出す気がないわけではなく出す方向、しかしこの場でそのように明言はできないということはおわかりましたので、そこについては、事業者と市とで踏み込んだ議論をしていただいて良い結果につなげていただきたいと思いますので、よろしくお願ひします。</p>
事務局	<p>匹見線のときに人件費という話があったかとは思いますが、今年度に入っているいろんな話をする中で、直接的に人件費を上げなさいですか、この補助で給料を一定程度上げてくださいという話ではなく、総じていろんな処遇改善ということが考えられるという話はしてきてございます。今そういう状況にあるということで、今日のところはご了解いただいてありがとうございます。</p>
委員	<p>ジャンボタクシーという案が出ております。この運行便数とかも、素案の段階でお話は聞いております。タクシー会社、当組合のどこの会社がするかは決まっておりませんが、益田市のタクシー会社はやれと言われれば何便でもできるという状況です。ただ、私は今の話を少し残念だと思いつながら聞いているのは、バス事業者さんと益田市さんが、当然いろんな絡みがある中で、そこがお金のことなのか、その他のことなのかわかりませんが、市民、地区の皆さんのことを考えるのが最優先じゃないかなと思いつている中で、ジャンボタクシーが1台、2台必要かもしれないという中で、大型輸送のメリットというのはすばらしいもので、私、タクシー会社とすると、なぜバス事業者さんに、やめるではなくてやるという選択肢を持ってもらえないのかということが少し残念なところではありますので、オブザーバーが先ほど言われましたが、まだ7月25日です。8月15日ぐらいまでは、まだ余裕が若干ですがある中で、バス事業者さんも当然大変でしょうが、社長さんと山本市長さんがもっともつと話をしながら、住民のことを考えていただければなと思っておりますので、大変でしょうが、何卒お願ひしたいと思っております。以上です。</p>
事務局	<p>ご意見ありがとうございました。市としても委員さんが言われたとおり、そういった思いも持っておりますので、良い方向に進むように対応してまいりたいと考えております。</p> <p>本日議論いただきました、ご意見いただきました内容について、日曜日から住民説明会を予定しておりますので、この代替案や本日のご意見を説明会の中でお話ししながら、意見を集約していきたいと考えております。最終的には8月中旬になりますが、活性化協議会がありまして、そこでまたご議論いただければと考えておりますので、よろしくお願ひいたします。</p>

委員	<p>我々は傍観的な立場でこの会議を聞いております。事務側と企業側とのやりとりをどのようになされてきたのかということをお聞きした状況の中、何を本当に話し合わなければいけないのかということが、住民としてはつかむことができません。意見を言うのもなかなか難しい。こういった内容の協議会を開いてもあまり意味がないような気がするのだけでも、もう少し我々の意見を吸い上げて、この雰囲気をやや和やかにして、オブザーバーにはせっかく講義して下さったので、それにまつわるような、関係するような話の中に持ってってもらわないと意見は出せません。</p> <p>そういうやりとりは見えないところで、トップ会談でやってもらうようなことをここでやらねばならないと思います。</p> <p>今後の活性化に向けての緻密な議論の仕方があって、それができるような方向で会議を開いてほしいと思います。</p>
会長	<p>ありがとうございました。委員さんからおっしゃられた会議の進め方については、冒頭のオブザーバーの方からもお話がありましたが、今後また事務局の方と調整をしていきたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。</p>
4. 閉会	